

連続講座「天台本覚思想史」第5回 開催のお知らせ

(開講にあたって講師からのコメント)

《天台本覚思想文献の時代設定》

日本天台における本覚思想の発展は、仏教の日本的な展開として、鎌倉新仏教との関係、中世文化への影響などが指摘され、その研究の重要性が論じられてきた。しかし現在においても、大方の同意を得られるような定説には至っていない。その最大の理由は、文献の時代設定が非常に困難なことである。伝えられる撰者名に信用できないものが多いために、その文献がはたしていつできたのかを逐一論証し、建設的に時代設定をしていかなければ、天台本覚思想の展開過程を歴史的に辿ることができないからである。

現在、天台本覚思想文献の時代設定をめぐる、田村芳朗氏の説と花野の説が対立している。田村氏は、『観心略要集』を平安末期(一一五〇)から鎌倉初期(一二〇〇)にかけての成立、『三十四箇事書』を鎌倉中期(一二五〇、静明のころ)の成立と見て、時代設定をされているから、天台本覚思想の展開史を全体的に下げて見ておられる。対して花野は、『観心略要集』を源信の真撰(寂年一〇一七、その大半は源信がしたためたものであるが、伝承の過程で後世の人の手も加わっている)、『三十四箇事書』を皇覚の切紙(平安末期、一一八〇ごろ)と見て、時代設定をしているから、田村氏のそれより全体的に百年ほど繰り上がっている。天台本覚思想文献の時代設定は、日蓮遺文の真偽研究を左右する重要な問題であるから、決して等閑に付すことはできない。

【 記 】

日 時：平成 28 年 2 月 18 日(木) 午後 6 時 30 分より

会 場：新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

講 題：天台本覚思想文献の時代設定

講 師：花野 充道 先生 (法華仏教研究会 主宰)

聴講料：千円

(「天台本覚思想史」の講義 各回のタイトル)

○第1回講義(終了)「本覚思想の定義をめぐって」

○第2回講義(終了)

「天台智顗と『起信論』の仏身論の対比」

○第3回講義(終了)「本覚思想の歴史的展開」

○第4回講義(終了)

「本覚思想と基体説」

○第5回講義「天台本覚思想文献の時代設定」(2月18日)

○第6回講義

「四重興廃思想と日蓮教学」(3月)

※未定の日程は毎月ごとにお知らせしていきます

お申込みは 下記の項目に明記して FAX番号 042-627-7227 へ!

参加者氏名：_____ 歳 男・女

住 所：〒_____ 電話：_____

携帯：_____ メール：_____